

戸塚文郎 （1871-1941） 神父、醫師。明治二十五年（二月十一日）神奈川県横須賀生れ、昭和十四年八月十七日没（八九二一九元）。戸塚環海の長男。第一高等學校在學中岩下莊一より受洗。大正五年東京帝國大學醫科大學卒。十年北海道帝國大學醫學部助教となり、文部省命により歐洲留學。中途司祭を志し、十三年パリ郊外サン・スルピス神學校聖堂で司祭叙階。翌年歸朝、聖ヨハネ汎愛病院開院。昭和四年カトリック神學校教授、翌年雜誌『カトリック』編輯長、同日本カトリック新聞『初代主筆』のち社長。十二年カトリック・ペン・クラブ會長。譯著『（聖フランシスコ）信心生活の入門』（普及版・昭和六年六月一日）日本カトリック刊行會）、『農村の改革者』聖ヴィアーン一傳』（昭和七年一月）武宮出版部、改題復刊『農村の聖者』聖ヴィアーン一傳』（十八年四月）二十五日中央出版社「聖人傳叢書」）、『戸塚文郎著作集』全五卷（昭和二十九年刊）等。小田部胤明著『戸塚神父の生涯』（昭和四十二年刊、増補改訂版『戸塚神父伝』神心聴診器をこたへる』平成元年八月十七日中央出版社）がある。

